

## モジュール型中級後期教科書の学生による評価（４）

宮内 俊慈

### 要旨

関西外国語大学留学生別科の中級後期のクラスにおいては、2008年度より本校教員の高屋敷（2012）により開発されたモジュール型教科書を使ってきた。当教科書は、ドラマを対象としたUnit 7を除き全6ユニットから成り立っているが、2014年の夏にUnit 1を、2015年の夏にはUnit 6を、さらに、2016年の夏にはUnit 4の改訂を行い、次の秋学期に試用し学生への調査を行った。そして、その結果を前回（26号）の紀要で報告した。これらの改訂に引き続き2017年の夏には、Unit 5の改訂を行った。本稿では、その改訂後の教科書に対する学生へのアンケート調査の詳細結果を報告する。

【キーワード】 モジュール型教材、接触場面、ディスカッション

### 1. はじめに

関西外国語大学留学生別科においては、2008年秋学期（9月～12月）より中級後期の日本語クラス（日本語6: Japanese 6、以下、JPN6）のメインテキストを独自に開発し使用してきた。開発は、本校教員の高屋敷（2012）が行い、モジュール型教材が採用された（高屋敷 2013）。モジュールというのは、岡崎（1989）によれば、「教科書のように特定の順序に沿って一つ一つの課を学習するタイプの教材とは違い、学習者が既に学習し終わっている項目から一定程度独立して使えるようにした教材」である。高屋敷（2012）はこのモジュール型教材を採用した理由として、中上級レベルでは学習項目の提出順序を積み上げ方式で行っていく必要性が低いことと常に変化する学習者のニーズに柔軟に対応できることの二つを挙げている。

こうして開発されたJPN6の教科書であったが、社会情勢の変化と共に実際と合わない状況が出現し、途中で内容が変更されたものがあり、筆者が担当した2012

年の秋学期の時点での各ユニットのタイトルは、以下のようになっていた。

Unit 1 「Mixi、やってる？」

Unit 2 「交通機関のマナー」

Unit 3 「夫？主人？」

Unit 4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか？」

Unit 5 「インターネットは人類を幸せにしたか？」

Unit 6 「外国人労働者、受け入れますか？」

2014 年の夏に Mixi がもはや日本社会であまり使用されなくなってきたことを受けて、Unit 1 のトピックを LINE に変更することにしてメインダイアログを改訂した。そして、その秋学期より新しい Unit 1 の試用を始め、Unit 4 まで終了した中間試験が終わった段階で学生間の教科書に対する評価をアンケート調査した。その詳細は、以前の紀要で報告されている（宮内 2015）。

2015 年には、Unit 6 の改訂を行った。この時の改訂の候補としては、Unit 4 「ユニクロ、MUJI は海外で成功するか？」と Unit 6 「外国人労働者、受け入れますか？」の 2 つが挙がったが、最終的には Unit 6 が改訂されることになった。決定された経緯などの詳細については、前々回の紀要（高屋敷・宮内 2016、宮内 2016）で報告されている。

2016 年には、その前の改訂の候補として挙がったもう一方の Unit 4 に着手することにした。Unit 4 が改訂対象となったのは、2014 年の調査でも学生間のトピックに対する興味が一番低く、さらに 2015 年の調査でも同様の結果が出てきたことである。調査結果の詳細については、前回の紀要（宮内 2017）で報告されている。

これらの改訂により、今回の改訂前における全 6 ユニットのタイトルは、以下のようになっていた。

Unit 1 「LINE、やってる？」

Unit 2 「交通機関のマナー」

Unit 3 「夫？主人？」

Unit 4 「和食ブームって、本当？」

Unit 5 「インターネットは人類を幸せにしたか？」

Unit 6 「就活って何？」

今回の改訂では、Unit5 がその候補となった。Unit5 のタイトルは「インターネットは人類を幸せにしたか？」で、インターネットによって世界は便利になったが果たしてその変化は人類に幸福をもたらしたのか、ということがテーマとなっている。しかし、このユニットは、前回の調査で学生の間での人気が低かったこと、また、内容として Unit 1 の LINE をテーマにしたトピックと重なっているという指摘が学生からなされていたことが改訂理由として挙げられる。

改訂作業はこれまでの改訂の時と同様に、本文ダイアログの作成、単語リストの作成は高屋敷が担当し、それ以降のテキストとしての編集作業は筆者が担当した。改訂の内容もこれまでの改訂の時と同じように、ユニットの中で取り上げた文型はそのままし、既存の単語リストもできる限り変更を加えずに行った。そのため、文型の説明パートや文型練習のパートは大幅な変更をすることなく改訂することができた。

## 2. 改訂内容

今回改訂された主なものは、Unit 5 のメインダイアログである。ここでは、その改訂前のもの（図 1 および図 2）と改定後のもの（図 3 および図 4）を転載する。

### 2.1 改訂前のダイアログ

タイトルは「インターネットは人類を幸せにしたか？」で、ダイアログは会話 1、会話 2、会話 3 の 3 部から成り立っている。会話 1 では、留学生のアンがホームステイ先のお父さんと話しているという状況で、お父さんが自宅で大量の仕事のメールをチェックしなくてはいけない状況を説明しているシーンとなっている。会話 2 では、そのホストファミリーのお父さんがインターネットがない時代を懐かしみ、インターネットの普及によって現代が監視社会・管理社会化してきていることを嘆いているシーンとなっている。そして、会話 3 では、アンが学校で日本の携帯電話とパソコンの普及率の変化について発表している内容となっている。

この Unit 5 について、前回の 2016 年度のアンケート調査においては、「内容がい

図1 改定前のダイアログ(1)

## Unit 5 インターネットは人類を幸せにしたか?

会話1 【アンが、夜、家で会社のメールをチェックしているホームステイのお父さんと話しています。】

- アン : お父さん、家でも仕事ですか? (＝父)
- 父 : うん、家でも会社からのメールをチェックしないと、いけないんだよ。  
緊急の連絡があるかもしれないからね…。
- アン : なんだか、24時間ずっと仕事をしているみたいですね。
- 父 : うん、そうなんだ。こうやって、eメールがいつでもどこでも見られるようになると、プライベートと仕事の境界を見つけるのが大変だよ。
- アン : でも、晚ごはんの後くらい、もっとゆっくりしたらいいと思うけど…。
- 父 : そういうわけにもいかないんだよ。平社員ならともかく、私は課長だから、私が関連しているプロジェクトのメールだけ読めばいいというものではないんだ。
- アン : え? どういうことですか。
- 父 : うん、私が関係していない案件についても、CCで会社すべてのメールが同報メールとして入って来るんだよ。
- アン : え? 一日にどのくらいメールが来るんですか。
- 父 : 300通くらいかな…? その3分の2くらいが同報メールなんだよ。
- アン : 300通! でも、それ、全部、読まなくちゃいけないんですか?
- 父 : うん、大体のメールには、目を通していいよ。し方がないんだ。毎週、金曜日の会議までにすべてのメールの内容を把握していないと、中間管理職として責任を果たしていないと言われて、上司から非難を浴びてしまうんだ。
- アン : えー? でも、そんなにたくさんのメールをいちいち読んでいたら、自分のプロジェクトの仕事に集中できないんじゃないですか。
- 父 : うん、その通りだと私も思ってるんだけどね…。し方がないんだよ。
- アン : それにしても、なんだか、非効率な感じがしますね。

### 会話2

- 父 : ああ、eメールやインターネットがなかった時代が懐かしいよ。ほんの15年前は、こんなふうじゃなかったんだがなあ…。
- アン : じゃあ、お父さんは、インターネットには、弊害があると思っているんですね。
- 父 : そうだねえ、最近では、仕事のメールでも読んだら、すぐ返信することが暗黙の了解になっているんだ。3時間後に送るときは、「返信が遅くなり申し訳ありません」と書くことが当たり前になっているよ。
- アン : そうですか。私も日本人の友達にメールのレスが遅いって、文句、言われたことあるけど…。
- 父 : メールによって、いつも仕事をしているかどうか監視されているような気持ちが出て、嫌になるよ。だから、インターネットが普及して、ますます管理社会化が進んでいるように思うよ。
- アン : わかりました。お父さん、私、今度の日本事情のクラスで、この問題について、みんなとディスカッションしてみます。



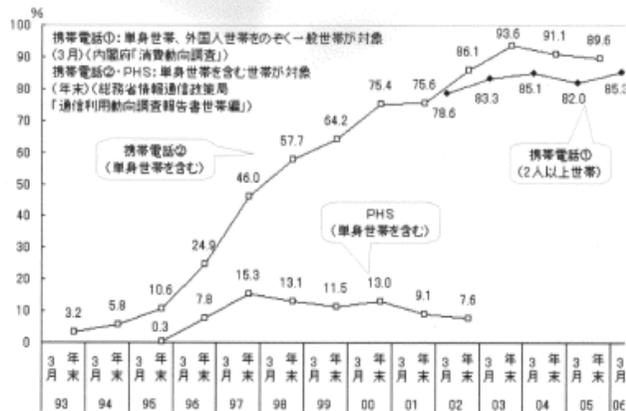
図2 改定前のダイアログ(2)

会話3 【日本事情のクラス：アンがグラフを説明しています。】

アン： 皆さん、こちらのグラフをご覧ください。

1993年から2006年までの携帯電話とパソコンの世帯普及率です。この携帯電話の普及率のグラフによると、1993年の年末には、まだ3.2%の家には、携帯電話がありませんでした。96年の普及率は、24.3%で、それまでは徐々に増えて来ています。しかし、96年から2000年にかけて、急激に増加しています。2000年の年末には、75.4%になっています。2000年から増え続け、2003年には90%に達しました。それから、2006年までは、90%前後で、ほぼ横ばいの状態です。

携帯電話世帯普及率



アン： そして、こちらが、パソコンの世帯普及率です。

こちらは、1987年から1996年までは、10%から16%くらいであまり変化がありませんが、96年から2003年まで順調に増加を続け、65.7%にまで増えています。単身世帯を含めると78.2%まで上がります。2004年に77.5%になり、少し減りましたが、2006年には、80.5%になっています。一人暮らしの人でパソコンを持っている人が多くなって来ているようです。

パソコン世帯普及率

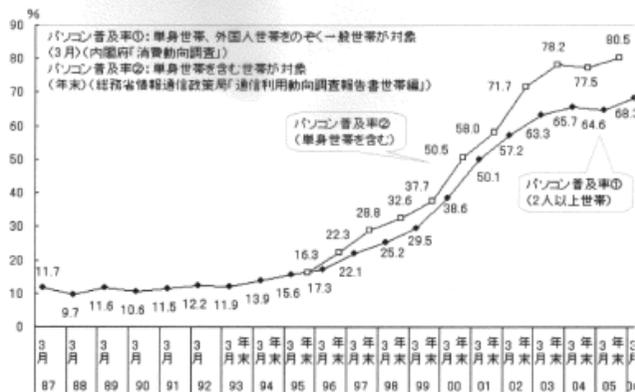


図3 改定後のダイアログ(1)

Unit 5 かんさい 関西は好きですか？

会話1 【大学のラウンジで、アンとジョンが、大阪から東京の大学に来ているひろしと話しています。】

アン : ひろし君、おはよう。

ひろし : ああ、アンちゃん、毎度〜。おはよう。

アン : ひろし君って、大阪から来てるから、関西弁を話すんだね。アクセントも違ってるし…。

ひろし : うん、直そうと思ってる、直らへんねん【直らないんだ】。

アン : 「直らへん」？

ひろし : ああ、「直らない」ってことや。

ジョン : 直そうなんて、思っていないじゃない？

ひろし : そんなことないで。前にアルバイトの面接に行った時も、標準語を話さなあかんあ【話さなきゃだめだなあ】って思ったし…。めっちゃ頑張って練習したんやで【練習したんだよ】。

アン : そっか、そうだね。面接の時くらい、標準語を話した方がいいかもね。

ジョン : でも、関西弁って、めっちゃ面白いなあ。僕にも何か関西弁、教えてくれへん？

ひろし : ああ〜、なんかちゃう【違う】なあ。差別するわけやないけど、日本人ならともかく、外国人にはちよっと難しいんちゃう【難しいんじゃない】？ 関西弁は標準語とアクセントがちやうから、関西弁の言い方をただ覚えて話せばええっちゃうもんやないんや【話せばいいというものではないんだよ】。

アン : そっか、アクセントまで覚えるのは、確かにちよっと難しそうだなあ。

あ、まりとけんも来たよ。

まり : おはよう！ 何、話してるの？

ジョン : あ、まりちゃん、おはよう。今、ひろし君に関西弁の話聞いてたんだ。

まりちゃんは、どう？ 関西弁、好き？

まり : あ、私は大好きだよ。関西弁って、なんか親しみやすいし、おもしろいイメージでしょ？

私、関西弁の漫才、大好き！

ジョン : へえ、そうなんだ。けんは？

けん : あ、俺も好きだよ。でも、東京に住んでる人の中には、関西弁は、なんかうるさくて、下品だって思ってる人もいるよ。

ひろし : え〜、なんでやねん！ そやから【だから】、東京人は、嫌やねん【嫌なんだよ】。

会話2

ジョン : 面白いなあ。関西と関東って、言葉だけじゃなくて文化も違うんだね。

アン : へえー、面白そう。ね、ひろし君、例えば、どんな違いがあるの？

ひろし : せやなあ。例えば、関東では、大学の「一年生」やろ？ 大阪では、「一回生」って言うねん。それから、マクドナルドは、何て呼んでる？

まり : 「マック」？

ひろし : 関西では、「マクド」って言うねん。

アン : まじで？ あ、そういえば、私、大阪に行った時、エスカレーターの乗り方が逆だったよ。

けん : そうなんだ？ 東京では、左側に乗って、右を空けるのがマナーだけけど…。

ひろし : 関西は、逆やねん。

まり : そうそう。それから、関西と関東のカップめんは、味付けが違ってるって知ってた？ 東京の方がしょう油の味が濃くて、関西の方が薄味なんだって。

ひろし : 当たり前や！ 関西は、おだしの文化やで。

アン : 面白い！ 私、今度の日本事情のクラスで、関西の観光について発表するから、参考にするね。

図4 改定後のダイアログ(2)

会話3 【日本事情のクラス：アンがグラフを説明しています。】

アン： 皆さん、こちらのグラフをご覧ください。

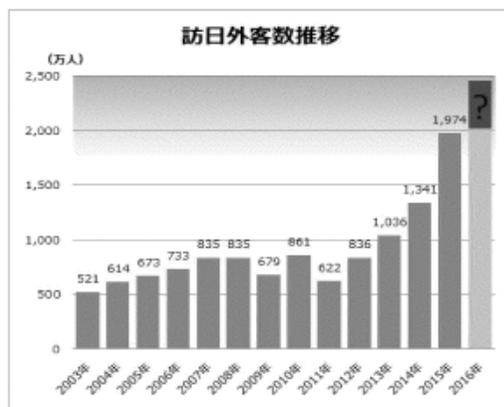
2003年から2016年までの訪日外国人観光客数の推移を表すグラフです。

このグラフによると、1993年には、まだ521万人しか、外国人観光客が来ませんでした。

それから、2007年までは、徐々に増えて来ています。2007年から2008年までの観光客数は、835万人前後で、ほぼ横ばいの状態です。

しかし、2009年にかけて、円高と新型インフルエンザの流行のせいで減少してしまいました。

2011年には、東日本大震災と福島原発事故の影響で、622万人まで大幅に減少しました。しかし、それからは、増え続け、2015年には1,974万人に達しました。その後、2013年頃から現在までは、急激に増えて来ています。



アン： そして、こちらが、外国人観光客に人気がある訪問地の割合です。

東京には、やはり50%以上の外国人が訪れ、一番人気があります。大阪は、人気訪問地の第2位で、大阪を訪れる外国人も、2013年から順調に増加を続けています。難波の道頓堀や黒門市場で食べ歩きをしたり、オタク達に人気の日本橋を訪れたりする観光客が多くなって来ているようです。



い」の評価が 10 名 (50%) で「良くない」が 1 名 (5%) という結果で、他のユニットと比べて低い評価となっていた。また、このユニットは、「面白さ」の評価についても全ユニット中、最下位で、学生間における関心の低さが見られた。昨今の大学生にとっては、もはやインターネットは特別なことではなく生活の一部である。従って、今更その存在に疑問を感じることはなく、存在していて当然のものとなっているのかもしれない。さらに、Unit 1 の「LINE、やってる？」とのトピックの重なりもあって、学生の中での新奇性に欠けたものとなっていた。

## 2.2 改訂後のダイアログ

前回の調査 (宮内 2017) における「今後取り上げて欲しいトピック」としては、日本文化、旅行、方言といったものが見られた。そこで、学生が本校に留学して直面する問題として自分の周りの日本人の多くが関西弁を話している、自分達がかれまで学習してきた日本語とのギャップにとまどうことがあるという話を学生から聞いていることも考慮して新しいトピックとして「関西」もしくは「関西弁」を取り上げることにした。

改定後の Unit 5 のタイトルは「関西は好きですか？」である。ダイアログの会話 1 では、主人公の「ひろし」が関西出身という想定になっており、彼が通う東京の大学で「ひろし」が東京に来て直すことのない関西弁が話題となっている。また会話 2 では、関西と関東の語彙や文化の違いといったものにも話題が及んでいる。会話 3 では、「ひろし」の友だちの「留学生アン」が日本事情のクラスで外国人観光客数の推移と人気のある訪問地の割合のグラフを説明している設定になっている。その中で大阪の人気の上昇について言及している。

本校は、大阪にあり、学生の多くが関西出身である。したがって、留学生が本校の学生と話す時には、関西弁に接する機会が当然のことながら多くなる。しかし、本校の初級クラスで使っている教科書である「げんき」を始め、日本語のほとんどの教科書は「標準語」を基準にして作成されている。その結果、自国で学んできた日本語と留学してきて実際に接する日本語とのギャップに戸惑う学生がいるというのが実情である。それだけではなく、関西エリアにおける留学生活に馴染めば馴染むほど、関西弁や関西文化についても関心が強くなるようである。

そうした状況は、日々学生と接していて感じられていたので、Unit 5 のトピック

で「関西」を扱えば学生の関心を集めることができるであろうということが本改訂の前から予想することができた。ただ、どの程度のものであるかは実際の調査を待たなければならなかった。

### 3. アンケート調査

#### 3.1 調査対象

以前の調査と同様に、今回の改訂に伴いアンケートを実施し、学生の反応を確認することにした。対象の学生は2017年秋学期（9月～12月）のJPN6の全学生である。アンケートは、学期がほぼ終了する11月に授業時間の終わりの15分程度を利用して実施した。この学期のJPN6の学生は16名（男子：5名、女：11名）おり、欠席者を除く15名が参加してくれた。アンケートは無記名で実施し、出身国の記述も依頼しなかったため参加した学生の出身国のデータは不明である。

#### 3.2 調査内容

調査は、これまでの調査と同じく、教科書全体に対する質問（3問）と各ユニットに対する評価（14問 x 6ユニット = 72問）があり、全87問であった。全体的な質問としては、「教科書(Packets)は全体的にいいと思う」かどうか、今後「取り上げて欲しいトピック」は何か、さらに、JPN6の教科書に対する「Free Comment」を尋ね、ユニット毎の項目としては、取り上げられている「トピックは面白いと思う」かどうか、ダイアログの内容、長さ、難しさ、語彙の多さ、難しさ、練習内容、表現説明の内容、聞き取り練習の内容など14項目に渡って詳細に尋ねた。実際のアンケートは、添付資料として挙げてある。

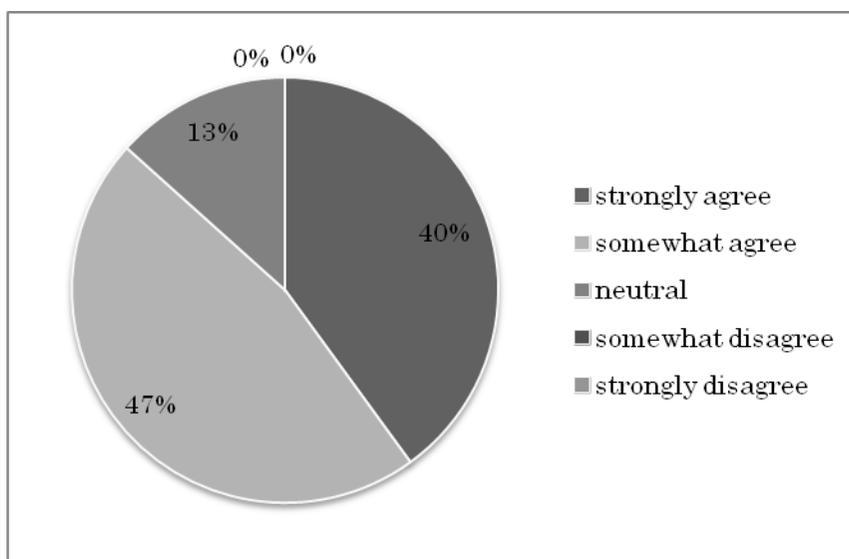
#### 3.3 調査結果

##### 3.3.1 教科書全体に対する質問

まず、教科書全体に対する感想（質問(1)）を求めたが、その結果が図5である。その結果、“strongly agree”と“somewhat agree”を合わせて87%の学生、つまり、回答者15名中13名が「良い」という評価であった。また、「まあまあ」と考えられる“neutral”の回答は2名いたが、「良くない」と評価する学生は1名もいなかった。JPN6の教科書(Packets)が多くの学生に好意を持って受け入れられているというこ

とがわかる。

図5 「教科書は全体的にいいと思う」に対する賛否



### 3.3.2 ユニット毎の質問

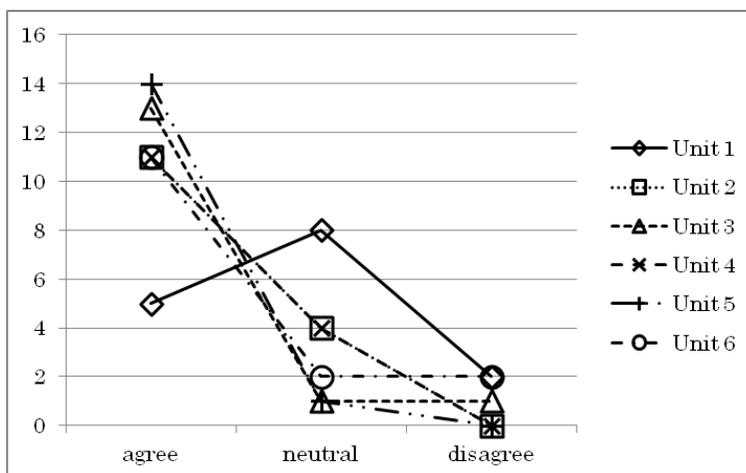
#### 3.3.2.1 トピックについて

ユニット毎にトピックが違うので、それぞれのトピックについて「面白いと思う」かどうかを尋ねた（質問(2)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図6である。このグラフでは、“strongly agree”と“somewhat agree”を合わせて“agree”とし、“strongly disagree”と“somewhat disagree”を合わせて“disagree”としている。

このグラフを見ると、全てのユニットにおいて“agree”が“disagree”を上回っているが、ユニット1ではその差が少なくなっており、さらに、同じくユニット1においては、“neutral”の回答数が8名（53.3%）となっており、“agree”および“disagree”を押さえて一番多くなっている。ユニット1は「LINE、やってる？」というタイトルで、2014年秋学期に入れ替えたトピックである。過去の調査(宮内 2015、宮内 2016)においては、人気の高いトピックであったが、今回は人気を集めることはなかった。人気の凋落の理由として考えたことは2つあり、一つは、今回の調査においてデータ数が15名と少なかったこと。もう一つは、SNS（ソーシャル・ネットワークサービス）の特性である。

最初の理由に関して言えば、春学期は秋学期からの延長学生が多く、レベル6のクラスも約40名で4クラス程度成立するのだが、今回データを収集した秋学期においては約半数程度の学生数になってしまうのが現状である。データ数が少なれば少しの偏りが大きく結果に影響してしまうが、今学期はSNSにあまり関心のない学生が多く、その影響を受けたと考えられるということである。もう一つの理由については、確かにLINEは留学生にとっては日本に来て初めて体験するアプリで、最初は日本人とのやりとりで戸惑うこともあるかもしれないが、同様のアプリはWhatsAppやKakaoTalk、Messenger、Snapchatなど日本以外の国で使われているものもたくさんあり、インターネット世代の今の大学生にとっては、特別に目新しいものとは言えず、あえて日本語で議論する対象として見られなくなってきているのかもしれないということである。

図6 「トピックは面白いと思う」に対する賛否のユニット毎の比較



ユニット5が今回改定を行った新ユニットである。新しいユニットのタイトルは「関西は好きですか？」で、前段で述べたように関西弁や関東と関西の文化・習慣の違いとを扱ったトピックとなっている。本校は大阪にあり、日本人学生の多くが関西弁を使っており、留学生のホームステイ先においても関西弁が使用されていることを考えれば、学生たちが関西弁に触れる機会が多く、関西弁に対する関心の高さが予想されたが、その予想に違わず全6ユニットの中で一番の人気の高さとなった(回答者15名中14名が“agree”: 93.3%)。「今後取り上げて欲しいトピック」のコ

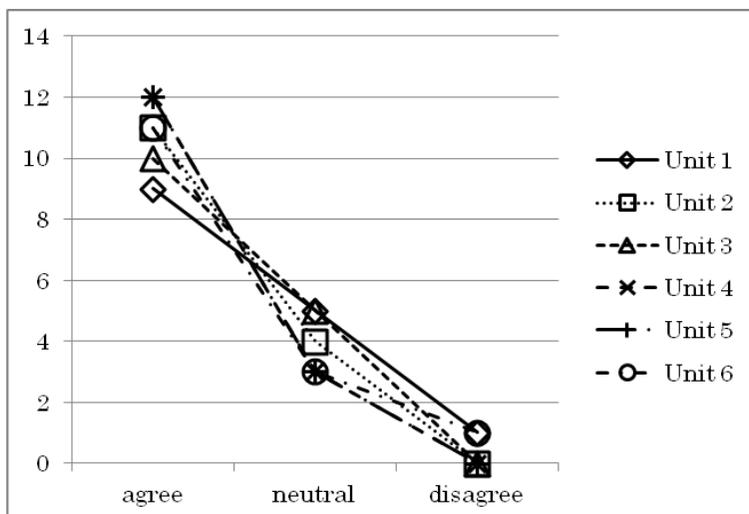
メントに対しても「もっと関西弁について」や“more more detailed Kansai-ben!”などの意見が見られ、学生が関西弁に対して強い関心を持っていることが伺えた。この結果から、今回の改訂プロジェクトで「関西」を取り上げたことは成功であったと言えるであろう。

### 3.3.2.2 ダイアログの内容について

次に、ダイアログの内容についての評価を尋ねた（図7）。これは、言ってみればダイアログの品質の良否に関する質問である。学生がそのトピックに興味があるかという観点ではなく、ダイアログの内容の良し悪しについてどう思っているのかを見る質問である。ここでも、どのユニットにおいても“agree”が“disagree”を大幅に上回っていることが見て取れる。

さらにこの項目では、先程の「面白さ」の評価のように Unit 1 において“neutral”が“agree”を上回るということは見られず、「内容はよい」に同意する学生が 9 名（60%）で“neutral”（5 名：33%）と“disagree”（1 名：6.6%）を押さえるという結果となった。ダイアログに対する関心は高くなくても内容的には良いと判断されていることが見て取れる。これはまた、学生が「面白さ」だけで教科書の良し悪しを判断しているわけではないということも表しているといえよう。

図7 「ダイアログの内容はいいと思う」に対する賛否のユニット毎の比較

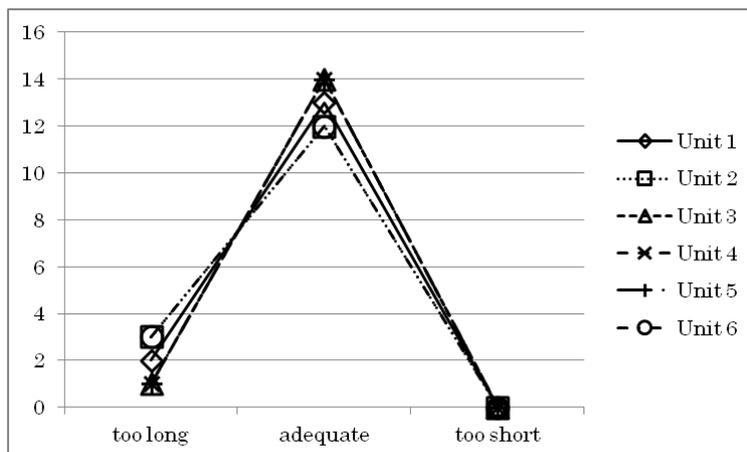


また、改定されたユニット 5 について見てみると、“agree”が 12 名（80%）で“disagree”と答えた学生は誰もいなかった。このユニットについては、先の「面白さ」の評価だけではなく「内容の良さ」についても高い評価を得ることができた。この2つの観点で共に高評価を得られたことから、今回のユニット 5 の改定は成功であったと言えるだろう。

### 3.3.2.3 ダイアログの長さについて

次に、同じくダイアログについて、その長さについて尋ねた（質問(4)）。ユニット間の比較を表すグラフが図 8 である。長さに関しても、どのユニットにおいても“adequate”が“too long”、“too short”を抑え最も多くなっている。前回の調査（宮内 2017）では、改定前の Unit 5 に対する“too long”という評価が 20%（20 名中 4 名）で一番多かったのだが、改定後の Unit 5 に対する“too long”という評価は、6.7%（15 名中 1 名）で、大幅な改善が見られている。

図 8 「ダイアログの長さ」に対する評価のユニット毎の比較



実際のユニット毎のダイアログの文字数を見てみると（表 1 参照）、改定後の Unit 5 の文字数は 2,056 となっているが、改定前は 1,791 で 6 ユニット中では一番短かった。今回は、実数としては多くなったものの、興味あるトピックであったため、長さは気にならないといった結果が出てきたのだと思われる。また、Unit 6 についても、他のユニットに比較して実数としては圧倒的に長いにもかかわらず、“too long”

という評価は、20%（15名中3名）に収まっている。前回の調査（宮内 2017）でも見られたが「実際の長さと感じる長さが必ずしも一致しない」現象が今回も見られることとなった。

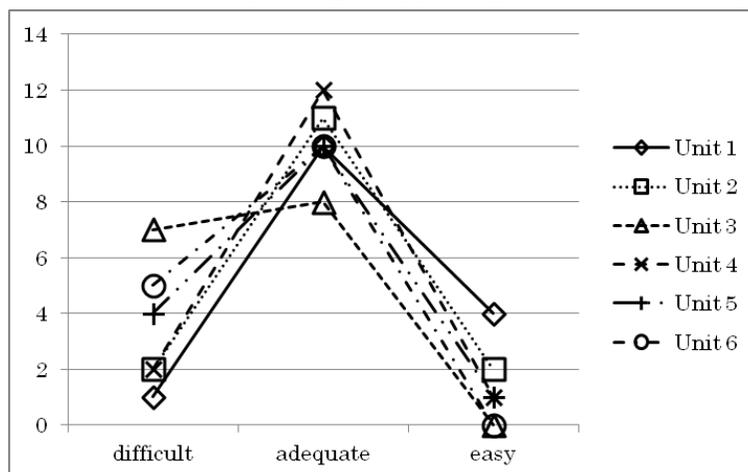
表 1 ダイアログの文字数の比較

Unit	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6
文字数	2,759	1,952	2,143	2,473	2,056	3,683

### 3.3.2.4 ダイアログの難しさについて

次に、同じくダイアログについて、その難しさについて尋ねた（質問(5)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図9である。

図9 「ダイアログの難しさ」に対する評価のユニット毎の比較



このグラフでは、Unit 3が他のUnitと比較して特異な状況を示している。他のユニットと同様に“adequate”（15名中8名：53.3%）が“difficult”（15名中7名：46.7%）を上回ってはいるが、その差はわずかである。「面白さ」に関しては、このユニットが他のユニットに比較して低いというわけではないにもかかわらず、この難しさに関しては、学生の内の半数近くが「難しい」と感じていることが明らかとなった。Unit 3は、「夫？主人？」というタイトルで、「立場が上というわけでもないのに、自分の結婚相手のことを『主人』と呼ぶ」ことには違和感がある、といった内容を扱っている。ダイアログの中身としては、大学のゼミのクラスで、課題として読んできた上記内容の投書について留学生を含めたゼミのメンバー数人と先生がディ

スカッションをしているという設定である。

前回の調査では、Unit 6「就活って、何？」が同様の状況であった。Unit 6は前節の「長さ」で見たように実数としての長さもあり、語彙的にも日常会話で留学生にとっては馴染みのない「内定」「転職」「採用」などの言葉が出て来るため「難しい」と評価されたと理解される。一方、Unit 3については、学生の議論の様子を見ると、“gender issue”（性差別）を扱うことの難しさを感じているように思われた。母国語でも話すことが難しい問題について学習言語である日本語で討論しなければいけない状況にストレスを感じ、そのことがこのユニットの難しさへの評価に繋がったように思われる。

### 3.3.2.5 単語の数について

次に、単語の数について、その多さについて尋ねた（質問(6)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 10 である。単語リスト上の実数は、表 2 に示した通りである。

図 10 「単語の数」に対する評価のユニット毎の比較

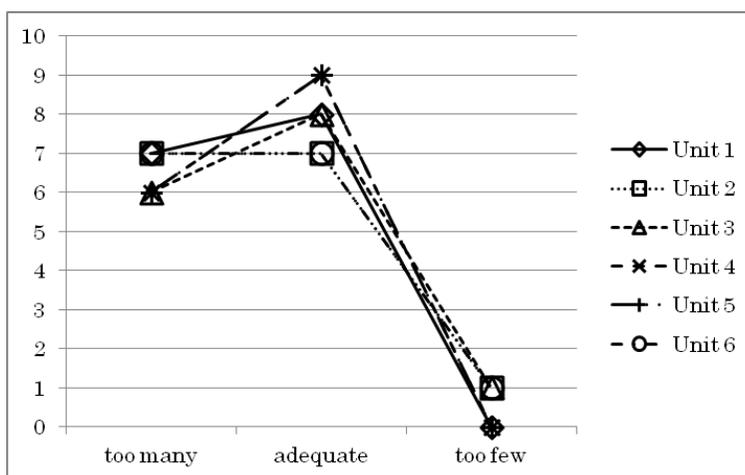


表 2 単語リスト上の単語数の比較

Unit	Unit 1	Unit 2	Unit 3	Unit 4	Unit 5	Unit 6
単語数	76	77	49	72	61	62

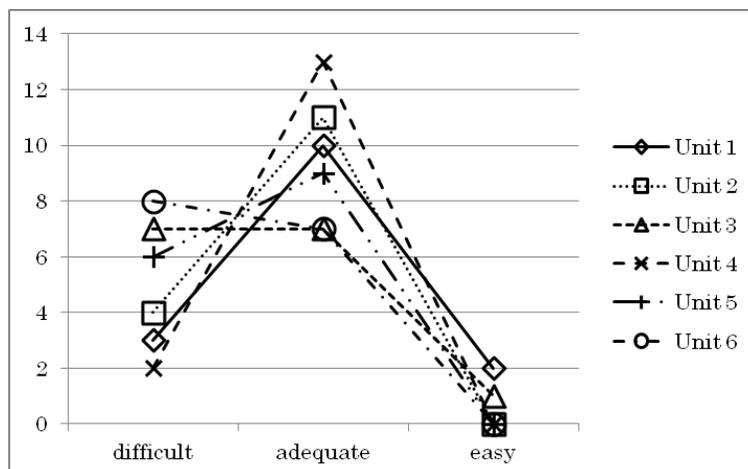
前回の調査（宮内 2017）と同様、“too many”と“adequate”とする回答が拮抗しているユニットが多い。その中で、“adequate”が最も多い 9 名（60%）となったのが、

Unit 4 と今回改訂された Unit 5 である。Unit 4「和食ブームって、本当？」は前回の調査でも“adequate”が 80%（20 名中 16 名）で最も多いユニットであった。その理由の解釈として『居酒屋』『外食』『持ち帰り』『煮物』など日常会話でも出てきそうな言葉があって、数の割には学生の中に抵抗感がなかったのかもしれない」（宮内 2017）。今回は前回ほど極端な差はでなかったものの同様の解釈が成り立つものと思える。今回変更改訂された Unit 5「関西は好きですか？」においても、「関西弁」「漫才」「観光」など身近な言葉が含まれており、同様に抵抗感のなさが“adequate”の評価につながったものと思われる。ここでもダイアログの長さ同様、単純に単語リスト上の数の多さが評価としての多さに一致するわけではないと言えそうである。

### 3.3.2.6 単語の難しさについて

次は、同じく単語について、その難しさに対する評価を聞いた（質問(7)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 11 である。

図 11 「単語の難しさ」に対する評価のユニット毎の比較



ここでは、Unit 6 において“difficult”（8 名）が“adequate”（7 名）を上回った。同様の現象は、前回の調査でも見られた。Unit 6 は、前節で挙げた「単語の実数から言えば 2 番目に少ないにもかかわらず、馴染みの単語が少ないということから難易度が上がっているように思われる。『就活』関連ということもあり、留学生たちに

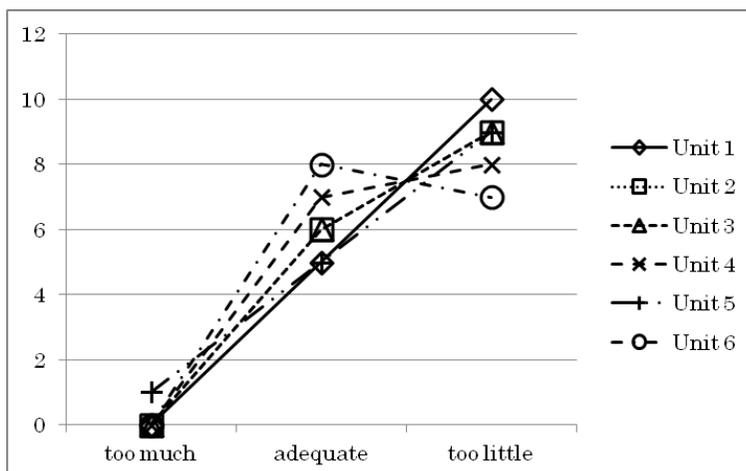
普段の会話で使わない単語がどうしても多くなり、難しく感じてしまうということが背景にある」(宮内 2017) と言えるだろう。

また、今回は Unit 3 において“difficult” (7 名) と“adequate” (7 名) が同数であった。単語リスト上の実数では Unit 3 は最も少なく特別に難しいと思える言葉も入っていないように思えるが、学生にとっては難しいと感じたようである。ダイアログを難しく感じるのが、単語の難しさに対する評価にも影響を与えたのかもしれない。

### 3.3.2.7 単語の練習の量について

各ユニットでは、表現練習だけではなく、単語練習の時間も取り入れている。その練習量について聞いた(質問(8))。ユニット毎の比較を表すグラフが図 12 である。ここでは、Unit 6 を除く他の全ユニットにおいて “too little” の回答が最も多い結果となった。同様の結果は、これまでの調査結果(宮内 2015 他)でも見られているが、「授業計画としては、新しい表現の練習が中心となってしまうため、授業時間中に単語練習に充てる時間はどうしても少なくなってしまう」(宮内 2017) ことが原因であろう。単語を使う練習は、授業外での学生の自主練習に任せていることがこのような結果になったものと思われる。しかし、単語練習を授業の中に多く入れることは、授業効率としてはいいものとは言えない。単語学習の良質な自習教材を導入して改善を図りたい。

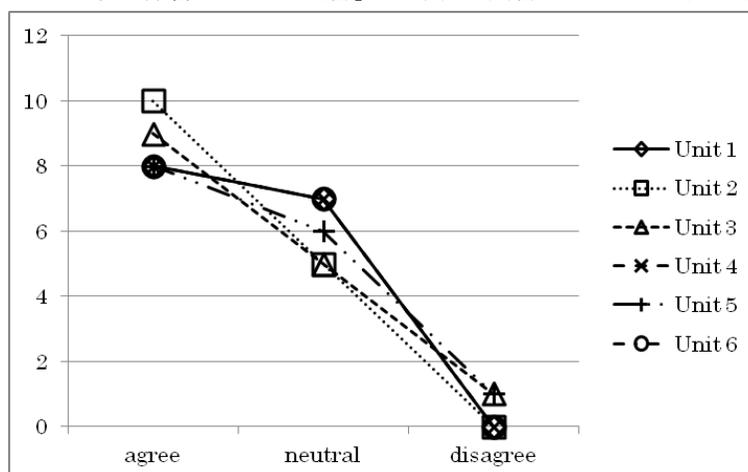
図 12 「単語練習の量」に対する評価のユニット毎の比較



### 3.3.2.8 単語の練習の内容について

その単語練習の内容について聞いたのが次の質問である(質問(9))。「単語練習の内容はいいと思う」という意見に“agree”か“disagree”を尋ねた。ユニット毎の比較を表すグラフが図13である。前回の調査同様、全てのユニットにおいて“agree”が“neutral”および“disagree”を上回っていて、練習内容そのものには満足しているようである。前節の「練習量が少ない」という意見とは対照的な結果となっている。前節の結果と合わせて分析すると、現状の単語練習の内容を活用した自習教材をうまく導入すれば、学生の満足度の向上につながるものと思われる。

図13 「単語練習の内容の良否」に対する賛否のユニット毎の比較



### 3.3.2.9 表現の説明について

表現説明のよし悪しに関する評価を聞いたのが次の質問である(質問(10))。ユニット毎の比較を表すグラフが図14である。

ここでは、前節の「単語練習の良否」と同程度の良好な評価が得られた。「説明に満足できるか」という質問に対して、“agree”が全てのユニットにおいて8名(53.3%)以上で、かつ、“disagree”が2名(13.3%)以下となった。

### 3.3.2.10 表現説明の例文の量について

その表現説明における例文の量について聞いたのが次の質問である(質問(11))。ユニット毎の比較を表すグラフが図15である。

図 14 「表現の説明の良否」に対する賛否のユニット毎の比較

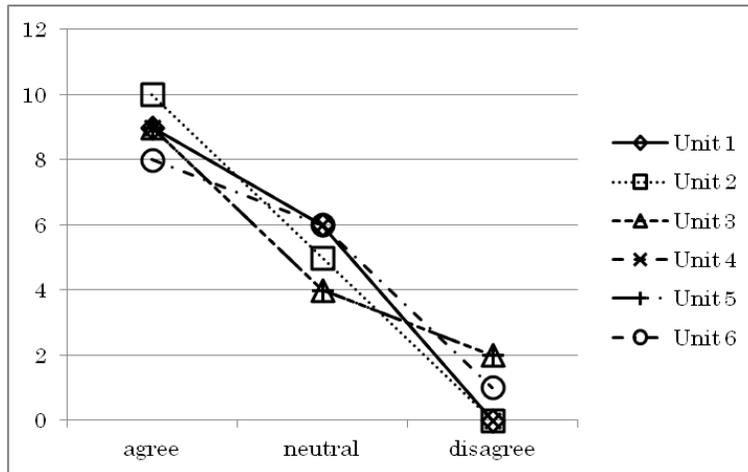
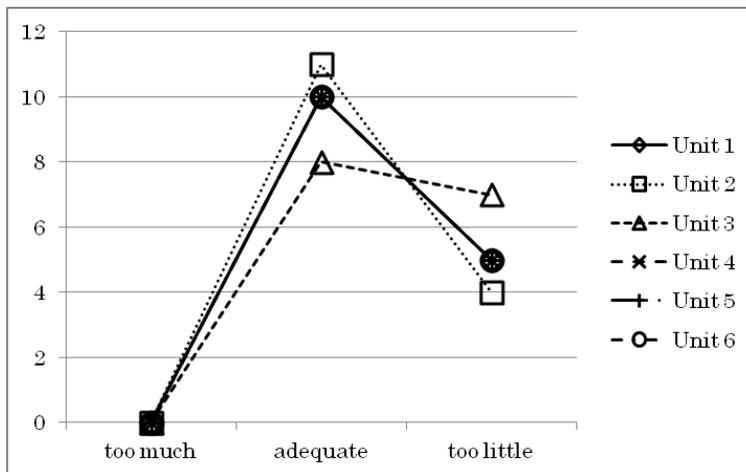


図 15 「表現説明の例文の量」に対する評価のユニット毎の比較



この質問に対しては、Unit 3「夫？主人？」を除く 5 ユニットにおいて 10 名 (66.7%) 以上の“adequate”の評価を得られた。Unit 3 で扱っている表現は、以下の 6 つの表現である。

1. N からすると
2. N のことだから
3. V ようがない
4. X ないことはない

5. X どころか、Y さえない

6. X 以上は

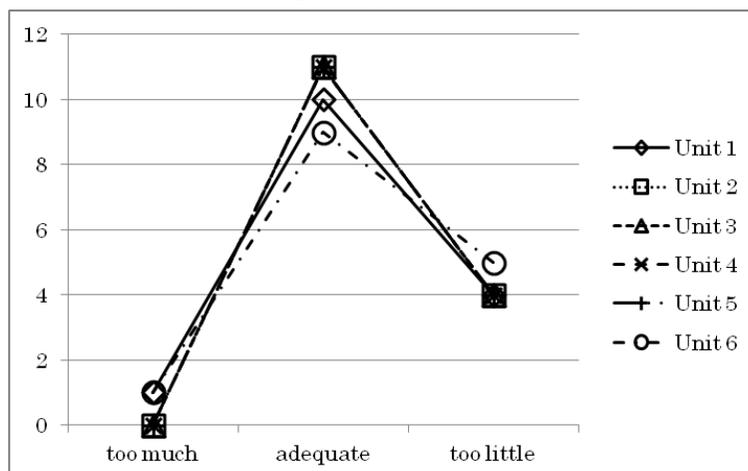
この中では、3. 4. 5. の 3 つの「否定の表現」が入っており、これにより表現の習得・理解を難しくしているのかもしれない。そのため、もっと例文を入れて分かりやすくして欲しいという希望につながっているものと解釈できる。

また、この Unit 3 における表現の習得の難しさも、前に述べた「ダイアログの難しさ」と「単語の難しさ」に影響を与えているのかもしれない。

### 3. 3. 2. 11 表現練習の量について

次の質問は授業で最も時間を使っている表現練習の量についての質問である（質問(12)）。ユニット毎の比較を表すグラフが図 16 である。

図 16 「表現練習の量」に対する評価のユニット毎の比較



この表現練習の量については、前回の調査（宮内 2017）で改定前の Unit 5 と現行の Unit 6 での満足度が低かった。「Unit 5 では、“adequate”が 20 名中 12 名（60%）、Unit 6 では、20 名中 11 名（55%）で、“too little”の回答が Unit 5 では、20 名中 7 名（35%）、Unit 6 では、20 名中 8 名（40%）であった。この 2 つのユニットでは、グラフや表を説明する表現が中心となっている。アカデミックの分野、あるいはビジネスの分野においてプレゼンテーションを行う際には、必須のスキルになるわけだ

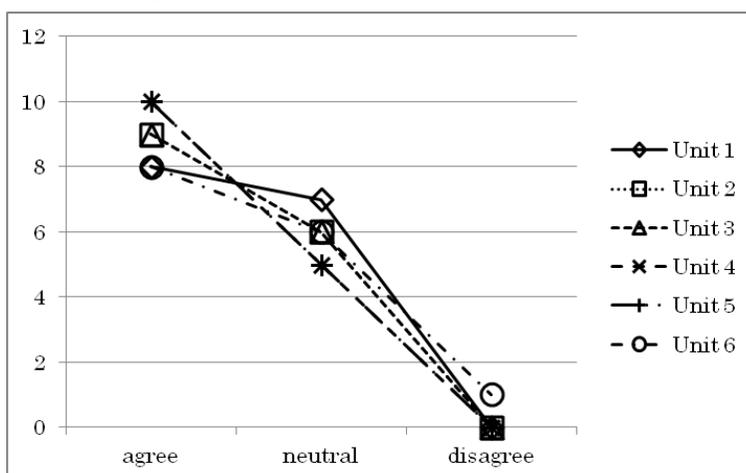
が、日常会話で頻繁に出てくる表現ではないため」、学生達は「練習量の不足を実感している」(宮内 2017)。しかし、今回の調査では、改訂された Unit 5 の満足度は、“adequate”が 15 名中 11 名 (73.3%) で、改訂のなかった Unit 6 についても、“adequate”が 15 名中 9 名 (60%) で、いずれにおいても満足度の改善が見られている。

今回の調査では、全体的に満足度が高い結果となったが、表現練習はこのテキストを使ったクラスでの最重要ポイントなので、この2つのユニットに対する表現練習の量の満足度については、継続的に注意深く着目していく必要があるだろう。

### 3.3.2.12 表現練習の内容について

その表現練習の内容について聞いたのが次の質問である (質問(13))。ユニット毎の比較を表すグラフが図 17 である。

図 17 「表現練習の内容」に対する賛否のユニット毎の比較



「表現練習の内容がいいと思う」に“agree”の数は、全てのユニットで 15 名中 8 名 (53.3%) 以上の回答になった。また、“disagree”の回答は、Unit 6 に対する 1 名以外はなく、内容的には高い満足度を示していると言っていいだろう。

### 3.3.2.13 聞き取り練習の効果について

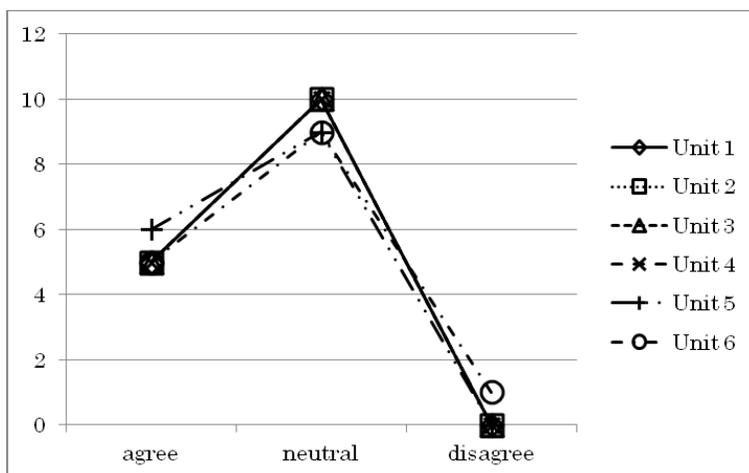
最後の 2 つは、聞き取り練習に関連した質問である。聞き取り練習は、ダイアロ

グを録音したものを学生に聞かせ、空欄を聞き取って埋めていくというディクテーションの練習をクラスで実施したり、宿題を課し学生の自主学習として実施したりしている。アンケートでは、「練習の効果」（質問 14）、「会話の速さ」（質問 15）の 2 項目について尋ねた。「聞き取り練習の効果」に対する評価のユニット毎の比較を表すグラフが図 18 である。

どのユニットにおいても「聞き取り練習は効果があると思う」に対する“agree”の数が“disagree”の数を上回ってはいるものの、“agree”よりは“neutral”の方が多く、決して高い満足度を示しているとは言えない。一番高い Unit 5 でも“agree”が 40%（15 名中 6 名）で、その他の Unit では 33.3%（15 名中 5 名）に過ぎない。“disagree”は全ユニットを合わせても 1 名だけだったが、改善の余地のあることを示している。

前回の報告でも述べたが、授業中に聞き取り練習の時間がなかなか取れず、学生の自習に任せる場合が多くなっていることが、その主な原因であると言える。この問題に関しては、教科書の問題ではなく、授業計画の問題である。

図 18 「聞き取り練習の効果」に対する賛否のユニット毎の比較



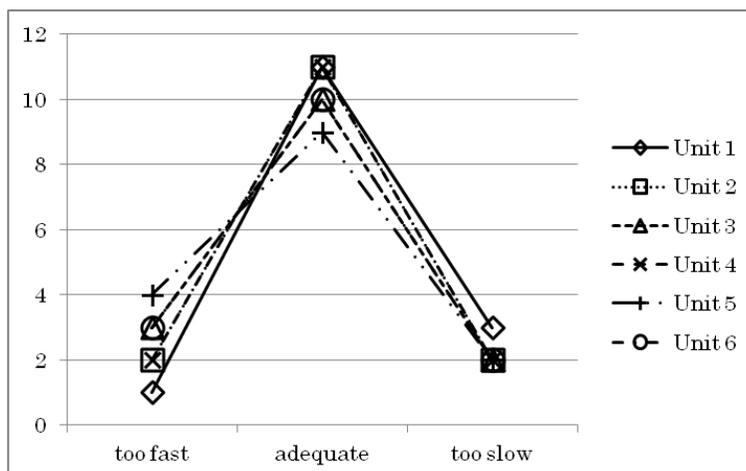
### 3.3.2.14 聞き取り練習の会話の速さについて

図 19 は、「ダイアログの会話の速さ」に関するグラフである。「会話の速さが、“fast”か、“adequate”か、“slow”か」を尋ねた結果のユニット毎の比較になっている。

会話スピードは、ほぼ natural speed で録音をされているが、前節で述べたようにクラスでダイアログを聞く時間があまり取れていないにもかかわらず、全てのユニ

ットで“adequate”の回答が 60%（15 名中 9 名）を超えており、会話の速さについての不満は見られないようである。これは、以前の調査も同様の結果が出ており、通常スピードの会話に慣れており、満足していることを示している。

図 19 「聞き取り練習の会話の速さ」に対する評価のユニット毎の比較



### 3.4 結果のまとめ

以上のアンケート調査の結果をまとめると今回の改訂対象となった Unit 5 を含め JPN6 のモジュール型教材の学生による評価として以下のことが言えそうである。

- (1) 今回変更となり取り上げた「関西弁」については、学生の間での関心が高く、トピックの変更は正解であったと言える。「関西弁」のみを取り上げたコースを提供することも検討していいと思える。ある程度の需要が見込めるものと言える。
- (2) マナーを取り上げた Unit 2 については、トピックそのものについては学生間での関心は低いものではないが、ダイアログの中身がテクノロジーの変化に合わない時代遅れのものとなってきていると言える。トピックそのものの変更は必要がないかもしれないが、ダイアログのマイナーチェンジは必要だと思われる。
- (3) ダイアログの長さには問題がないが、その難しさに関しては、そのトピックに対する興味の有無やディスカッショントピックとして取り上げる時の難しさが大きく影響するようだ。ジェンダーの問題を扱った Unit 3 は、ダイアログの実際の長さは他と比べて決して長くないにもかかわらず、ディスカッショントピックとしての難しさが影響し「難しい」という評価が見られた。

(4) 単語の数と難しさに関しても、ダイアログと同様、単に数だけの問題ではなく、どれぐらい馴染みのある語彙を含んでいるかということが問題になるようである。「普段の会話であまり使用せず、コースにおいてのみ出て来るような言葉が多いと学生は単語の数が多く、また難しいと感じてしまう。」(宮内 2017) というのは、前回調査と同じである。単語の練習量は、教科書の問題ではなく授業計画の問題に収斂される。前回述べたように、「宿題にして提出させてチェックをするといった形で補うことができるかもしれない」(宮内 2017)。

(5) 表現の説明については、満足度が高い。「聞き取り練習の効果」については、前回調査と同様に「授業で取り上げる機会を増やすことによって満足度を高めていく努力が必要である」(宮内 2017) と言える。

#### 4. 今後の展望

今回のアンケートにおける「今後取り上げて欲しいトピック」の中には、「敬語」を挙げる学生が数名いて、日本語習得に対する意欲的な姿勢が伺われた。個人的には、今回の調査からは見て取れなかったが、Unit 2 の「交通機関のマナー」が少し時代遅れのものになっているように感じた。このユニットのダイアログの中に「iPod やウォークマンのイヤフォンからシャカシャカ漏れる音、あれもうるさいなあ」というくだりがあるが、今ではこうした状況が電車の中で見られることはなく、多くの人がスマホを静かにいじっていることの方が多い。また、イヤフォンをつけている人がいてもそこから音が漏れるということは、技術の進歩に伴ってお目にかかることがなくなった。これらのことを考えると、学生のニーズだけでなく、今後とも変わりゆくであろう社会情勢・テクノロジーの変化をも考慮しながら、新しく取り込んでいくトピックを検討していく必要があるだろう。

#### 5. おわりに

2014 年に行った Unit 1 の改訂、翌 2015 年の Unit 6 の改訂、2016 年の Unit 4 の改訂、そして、今回 Unit 5 が改訂されたことに合わせて、学生による教科書評価のアンケートを実施し、その結果を報告した。幾つかの改善点も見つかったが、過去 3 回の改訂の時と同様、全体的には学生の間の評価は高かった。その最大の理由としては、これまでの報告(宮内 2015 他)でも述べたとおり、モジュール形式を取っ

ていることにより、部分的な変更が容易に行えることで学生のニーズに素早く適応できることにあると思われる。今後共、学生のニーズ調査を継続し、また、社会状況の変化、さらに前段で述べた技術革新などによる生活の変化をも考慮しながら、必要な改定を行っていけば時代遅れの問題になることなく学生の満足度を高い状態で保つことができるものと確信する。今後とも、こうした努力を継続していきたいと思う。

### 参考文献

- 岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材』 アルク
- 高屋敷真人（2012）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』22号 pp.119-133.
- 高屋敷真人（2013）「モジュール型教材を利用した中級日本語会話練習—教室内と教室外の言語活動の統合に向けて—」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』23号 pp.131-146.
- 高屋敷真人、宮内俊慈（2016）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト実践報告（2015）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』25号 pp.55-68.
- 高屋敷真人、宮内俊慈（2017）「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト実践報告（2014～2017）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』26号
- 宮内俊慈（2015）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』24号 pp.49-69.
- 宮内俊慈（2016）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（2）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』25号 pp.25-54.
- 宮内俊慈（2017）「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（3）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』26号 pp.41-62.

(smiyauc@kansai.ac.jp)



# JPN6 教科書アンケート

Date

Sex

Male

Female

Please rate the following aspects of JPN6 packets.

(1) 教科書全体

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
The packets of JPN6 are good as a whole.	<input type="radio"/>				

(2) トピックはおもしろいと思う(The topic is interesting.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?, 主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(3) ダイアログの内容(ないよう)はいいと思う(The content of the dialogue is interesting.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(4) ダイアログの長さは?(The length of the dialogue is;)

	Too long	Somewhat long	Adequate	Somewhat short	Too short
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(5) ダイアログの難しさは?(The difficulty of the dialogue is;)

	Too difficult	Somewhat difficult	Adequate	Somewhat easy	Too easy
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(6) 単語の数は?(The number of the vocabulary is ;)

	Too many	Somewhat too many	Adequate	Somewhat too few	Too few
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(7) 単語の難しさは?(The difficulty of the vocabulary is :)

	Too difficult	Somewhat difficult	Adequate	Somewhat easy	Too easy
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(8) 単語練習の量は?(The amount of the “vocabulary practice” is :)

	Too much	Somewhat too much	Adequate	Somewhat too little	Too little
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(9) 単語練習の内容はいいと思う。(The content of the “vocabulary practice” is nice.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人?」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当?」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか?」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何?」	<input type="radio"/>				

(10) 表現の説明は、満足できる。(The explanation of expressions is satisfactory.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人?」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当?」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか?」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何?」	<input type="radio"/>				

(11) 表現説明の例文の量は? (The amount of example sentences in the explanation is :)

	Too much	Somewhat too much	Adequate	Somewhat too little	Too little
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(12) 表現練習の量は? (The amount of the “expression practice” is :)

	Too much	Somewhat too much	Adequate	Somewhat too little	Too little
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(13) 表現練習の内容はいいと思う。(The content of the “expression practice” is appropriate.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人?」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当?」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか?」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何?」	<input type="radio"/>				

(14) 聞き取り練習は効果があると思う。(The listening practice is effective.)

	Strongly Disagree	Disagree	Neutral	Agree	Strongly Agree
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人?」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当?」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか?」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何?」	<input type="radio"/>				

添付の資料 JPN6 教科書アンケート p.8 (最終ページ)

(15) 聞き取り練習の会話の速さは? (The recording speed of the listening practice is :)

	Too fast	Somewhat too fast	Adequate	Somewhat too slow	Too slow
Unit1 「LINE、やってる？」	<input type="radio"/>				
Unit2 「交通機関のマナー」	<input type="radio"/>				
Unit3 「夫?、主人？」	<input type="radio"/>				
Unit4 「和食ブームって、本当？」	<input type="radio"/>				
Unit5 「関西は好きですか？」	<input type="radio"/>				
Unit6 「就活って何？」	<input type="radio"/>				

(16) 今後取り上げて欲しいトピックがあれば、教えてください。  
(Tell us what kind of topic we should take on the JPN6 packets in the future.)

(17) フリーコメント(JPN6のPacketに関してどんな意見でもあれば言ってください)  
(Write any comments about the JPN6 packets, freely.)

